海水浴シーズン、オニヒトデに注意!!

県内初のオニヒトデによる死亡事例が発生

宮古島市でオニヒトデ（図 1）の刺傷による県内初事例となる死亡事故が 2012 年 4 月 24 日に発生しました。被害者は、ダイビングインストラクターをしており、ダイビング客を引率中にオニヒトデに刺されました。被害者は病院へ搬送されましたが、翌日死亡が確認されました。死因は「オニヒトデ刺傷により引き起こされたアナフィラキシー・ショックに起因する低酸素脳症」と診断されました。過去に県内ではオニヒトデ刺傷による死亡事例の報告はなく、国内でも報告事例は確認されていません。

アナフィラキシーとは

「アナフィラキシー」はアレルギーの 1 種で、即時型で症状が全身にでるものをいいます。さらに重症の場合を「アナフィラキシー・ショック」といい、最悪の場合は死亡する場合もあります。「アナフィラキシー」は、1 度体内に入ったことのあるアレルゲン（毒などの特定の原因物質）が、2 度目以降に体内に入ることで発症する恐れがあるとされています。今回の事例の被害者は以前にもオニヒトデに刺されていたそうです。また、体質（重度のアレルギーなど）やハチ毒などでは 1 度目でも発症の恐れがあるとされています。

オニヒトデに対して注意すること

オニヒトデは全身に毒のトゲをもっていますが（図 2）、刺されたときの主な症状は、強い痛みや腫れなどです。また、裏面から透明な粘液を多量に分泌し、触れると接触性皮膚炎を生じます。サンゴ礁域やその周囲に生息しますので、見つけても触らないで下さい。動きはあまり早くないため、気をつけていれば被害にあうことはありません。ただし、テーブルサンゴの下に隠れていることもありますので、むやみに手を入れないようにしましょう。

もし、刺されてしまったら刺さったトゲは折らないように真っ直ぐに抜いて、出来るだけ取り除いてください。刺された部位を 40～45℃程度の火傷しない程度のお湯にしばらくつけると痛みが和らぎます。また、応急処置の後は病院へ行くようにしてください。

海の危険生物による「アナフィラキシー」発症の報告例は多くはありませんが、オニヒトデ以外ではクラゲ、イソギンチャク、アナサンゴモドキの仲間による被害での報告例があります。これら過去に被害事例のあった危険生物には特に注意が必要ですが、必要以上に怖がる必要はありません。「むやみに触らない・いたずらしない」などの正しい知識を持ち、被害にあわないよう十分注意して、これからの海水浴シーズンを楽しんでください。

オニヒトデ

学名：*Acanthaster planci*

分布：紅海から太平洋の熱帯・亜熱帯海域。国内では南西諸島、九州、本州のサンゴ礁域。

特徴：全身が毒棘に覆われている大型のヒトデで、大きいもので直径 60 cm 位になる。県内では年中生息している。腕の数は多いもので 20 本を超える。サンゴを食べるため、大量発生の際にはサンゴ保全のために駆除作業が実施されている。寿命は 6～8 年と考えられており、1 年に数千万個の卵を産む。

図 1．オニヒトデ

毒素：毒は棘にもっており、主に蛋白様毒（プランシトキシンなど）。また、サポニンも持っている。
刺症被害：県内では 2011 年までの過去 14 年間で 91 件の刺症被害が報告されている。主な症状は、疼痛や腫脹で、時には痺れや吐き気なども報告されている。被害時の行動ではダイビングや遊泳中が多いが、駆除作業中の被害もよく報告される。主な受傷部位は「指」が最も多く、次いで「手」「足」「下腿」が多い。

図２．オニヒトデの毒棘

気をつけよう!! 海のキケン生物

沖縄県では代表的な海のキケン生物の紹介と応急処置、クラゲネット設置ビーチなどを掲載したリーフレットを配布しています（図 3）。今回紹介したオニヒトデ以外にも、ハブクラゲ（図 4）やアンボイナガイ（図 5）、オニダルマオコゼ（図 6）、ウミヘビ（図 7）といった生物を紹介しています。

衛生環境研究所のホームページから日本語版および英語版がダウンロードできますので、海水浴のお供に 1 冊お持ちして頂ければ幸いです。

【衛生科学班】

図３．リーフレット

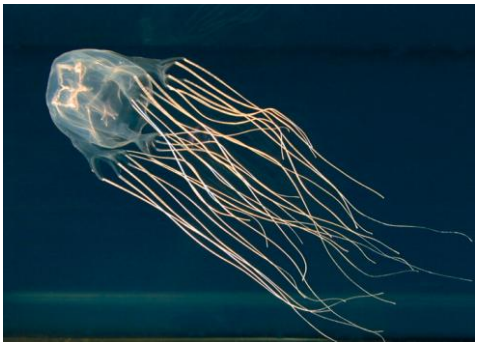
図４．ハブクラゲ

図５．アンボイナガイ

図６．オニダルマオコゼ

図７．ヒロオウミヘビ